2025年度 自己点検・自己評価及び学校関係者評価結果

■自己点検・自己評価結果の評価点について
(1) 自己点検・自己評価委員が4段階で評価した点数の合計を評価者数で除した平均値
(2) 4段階評価【評価基準点　適切⇒4　ほぼ適切⇒3　やや不適切⇒2　不適切⇒1】

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果
Ⅰ 教育理念・目標	3.4	1 教育理念・目標	3.4	1)教育理念・教育目的・卒業時に期待する学生像(育成人材像)を明文化しているか。	4.0	設置母体である小田原医師会のビジョンである「この地域に住んで良かったと思える医療環境の実現」を踏まえ、2021年度より教育理念を「看護職の育成により地域に貢献する」と変更するとともに教育目的、卒業期に期待する学生像を見直している。変更に伴い、ホームページ、学校パンフレット、学生便覧等にも明記し、オープンキャンパス等来校者へも説明をしている。2023年度には、正面玄関に教育理念を書いたプレートを設置している
				2)学校における看護教育の特色は明確であるか。	3.3	教育理念である「看護職の育成により地域に貢献する」の達成に向け、「地域で育ち、地域に貢献する」ことをコンセプトにしたカリキュラム作成(2022年)を行った。また日々の教育指導も医学、看護学をはじめとする専門的知識や技術の修得だけでなく、看護職としての能力形成(社会人基礎力)を支援することを念頭に行っている。
				3)教職員は、教育理念・教育目的・育成人材像について認識し、努力しているか。	3.9	2022年4月から実施された第5次カリキュラム改正のカリキュラム等編成の話し合いを重ね、本校の目指す方向が共通認識されたと考えている。様々な活動も教育理念・教育目的・育成人材像を踏まえたものに努め、さらなる推進に向け努力をしていきたい。
				4)教育理念・教育目的・育成人材像・特色などは学生に浸透しているか。	3.0	新入生にはオリエンテーションにて、保護者には入学時保護者説明会や秋に開催する「決意の日」などで説明し浸透を図っている。2・3年生にも4月に改めて説明を行っている。
				5)教育理念・教育目的は定期的に見直されているか。	3.1	2022年4月から実施となった第5次カリキュラム改正時に、変動する社会の中で看護職に期待する人々のニーズの変化を踏まえ、見直しを行っている。
Ⅱ 学校運営	3.4	2 組織体制	3.2	6)教育目的に沿った運営方針のもとに目標を明確化し運営しているか。	3.1	年度始めに当該年度の「学校経営方針」を教員に提示し、各学年担任や各看護学担当、係が作成する教育計画へ反映させるとともに、年間の取組み結果を年度末に評価している。
				7)学校運営会議・教職員会議などを定期的に開催しているか。	4.0	運営会議は年5回開催し、予算・決算・入試判定、その他運営に係る重要事項等を協議し、学校運営の基本的事項の決定を行った。教職員会議は2回開催し、学校行事や学校運営会議検討事項の協議と連絡調整を行った。
				8)教務および事務の組織を整備し、業務分掌は明確になっているか。	2.9	2025年度末に業務分担の見直しを図り、2026年度の業務を開始した。
				9)業務の効率化を行っているか。	2.9	DXを推進する3か年計画に基づき、面接記録や会議録等のペーパーレス化、Web出願での入試の実施、募集要項、学校のパンフレットの送付中止、Googleカレンダーの活用によるスケジュール管理を進めた。業務の効率化を図ることにより、学習や生活面に問題を抱える学生の個別指導等行った。
				10)就業規則等の諸規程は適切に整備されているか。	3.2	懸案であった育児・介護休業法の改正に伴う就業規程の見直しについて、育児・介護就業規程の改訂をするとともに、育児・介護等有給休暇規程を新たに制定し、令和8年4月1日より施行することとなった。
				11)法令等を遵守し、適正な運営をしているか。	3.4	新たに定められた「ハラスメント等防止に関する規程」等、諸規定に則り運営を行った。また、定められた事故発生時の対応方法により、安全な学校の安全管理及び運営に努めた。
				12)個人情報保護法は遵守されているか。	3.2	教職員及び学生の個人情報に関して、小田原医師会立看護学校個人情報取扱規則並びにおだわら看護専門学校個人情報保護方針により、個人情報保護管理者である副校長、事務長を中心に適切な管理を行った。

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果
Ⅱ 学校運営	3.4	3 自己点検・自己評価体制	3.3	13）学校の情報公開体制が整備されているか（自己評価結果の公開）。	3.2	授業計画書や成績評価におけるGPA等の客観的な算出方法等は学内掲示し、学校関係者評価の結果はホームページに掲載するなど、適切な方法で情報公表に努めている。
				14）教職員に対して自己点検・自己評価の実施及び問題点の改善に努めているか。	3.0	副校長をはじめとした5名の自己点検・自己評価委員によって委員会を組織し、更に職員を代表して3名の専任教員も自己点検・自己評価に取組み、抽出された課題・問題点・意見等の改善策を協議し、取組みを行った。
				15）外部関係者からの評価を取りいれているか。	3.8	自己点検・自己評価結果をまとめ、外部関係者による学校関係者評価委員会を開催し、学校関係者評価を実施したのち、ホームページで公表した。
				16）学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	3.1	学生に対する個別面談や学校生活の中で学校運営に関する意見や要望が出された場合は、把握した教員・事務職員が教務主任、副校長、事務長へ報告。状況を把握し、関係する教職員で対策を検討している。また、年に1回、生徒に対し学校運営に関するアンケートを取りまとめ、その結果を全教職員にフィードバックしている。
		4 財政基盤	3.1	17）事業報告を適時行い、会計監査が行われているか。	4.0	看護学校運営委員会・対策委員会及び設置者である小田原医師会の総務委員会・経理委員会において事業報告・会計報告を行い、設置者の監事監査を受け、理事会の議決後、定時社員総会で承認を受けるなど、適切に行っている。
				18）中長期的に学校の財務基盤は安定しているか。	2.0	学生数の減少により、財政面での厳しい状況が続いている。新卒者だけでなく社会人選抜及び医療・福祉施設推薦選抜入試試験を設け、学生獲得に努めている。小田原市及び神奈川県、その他補助金が安定的に確保できるよう働きかけるとともに、運営体制の適切化に向けた検討も進めている。
				19）財務状況の情報を公開する体制整備はできているか。	3.4	設置者である小田原医師会の財務状況について貸借対照表をホームページに掲載し公開している。その他の財務状況については、学内掲示により公表しており、いつでも閲覧可能な対応・体制を整えた。
		5 施設・設備（環境整備）	3.9	20）施設・設備は、教育上必要な対応ができるよう整備しているか。	3.7	教育上必要な備品・機械器具・標本模型等は台帳により管理し、必要に応じて修理・新規購入で対応した。法令上点検が定められている設備に関しては、専門業者により定期点検が実施された。
				21）図書室は適切に整備されているか。	4.0	非常勤司書を配置して必要図書を配架し、図書目録作成、蔵書点検を行うとともに、397冊の新規図書購入をし、最新の医療情報が取得できるよう整備並びに管理を行った。 蔵書数:9,658冊（2025年度末現在）
		6 安全・防災管理	3.9	22）消防計画、学校安全計画等は適切に整備されているか（防災管理規定の整備・地震・火災発生時の対応マニュアルなどの整備）。	4.0	消防計画は2014年の新築校舎移転とともに改正し、小田原市消防本部に届出を行っている。2024年度に自然災害発生時における事業継続計画（BCP）を作成し教職員に周知している。また、BCPを確認しながら防災訓練の企画・立案を行っている。
				23）火災などの予防及び防災訓練など、防災教育を実施しているか。	3.9	9月5日に予定していた本校の防災訓練は、台風15号の接近に伴い中止となった。10月7日と3月19日に総合医療福祉会館総合防災訓練に参加し、通報・避難及び消火訓練等を行った。
				24）防犯（不法侵入など）に対する整備は行っているか。	3.8	校舎の玄関は電気錠で管理され、エレベーターは看護学校のある2階、3階には通常は停止しない設定になっており、構造的に不審者の侵入ができないようになっている。外部講師等の入校に際しては、窓口となる事務室で確認したのちにセキュリティの解除をする等、十分注意を払い入校者を厳格に管理した。2024年度に不審者の侵入はなかった。

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果
Ⅲ 教育活動	3.4	7 学修成果	3.9	25）卒業時の到達状況を分析しているか。	3.6	年度末にディプロマポリシーの評価を行った。4つの項目ですべてが90％以上の達成率となった。
				26）資格取得率（国家試験）・進学状況の向上に向けた取り組みを図っているか。	4.0	国家試験対策として、模擬試験をはじめ教員の補講や個別指導、予備校の講習などを取り入れて学習低迷者に対して対策を行なった。
				27）中途退学の理由・実情を適切に把握しているか。	4.0	2025年度は7名の退学があった（前年度比6名減）。1年生の退学者が5名と多く、学力不足や自分に合った進路が看護師ではなかったという理由が多い。
				28）退学率の低減に向けた取り組みを図っているか。	4.0	学生のレベルに合わせた教育活動を実施し、学習が継続できるように各学年の担任が中心となって実践した。関連病院の協力も得て経済的な支援も行った。しかし、本人の希望や適性を考えて保護者と連携を取りながら指導を行った結果、退学に至った。
				29）学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。	4.0	1年生、2年生は、学習支援など細やかな指導を実施したが、単位修得ができず8名が再履修となった。3年生は丁寧な実習指導を行ったが2名が再履修となった。
				30）成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	3.8	成績評価については、シラバスに評価方法を記載し、単位認定のための評価基準と方法は学則及び規程に明文化している。実習評価についても全領域で統一した形式としている。
		8 カリキュラム・授業方法	3.5	31）カリキュラムは教育理念・目的・目標が反映され、効果的に構成されているか。	3.7	次年度にむけて、厚生労働省のガイドラインである「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」と授業科目の関連をシラバスに明記することとし、当校のディプロマシーポリシーだけでなく、看護教育の到達レベルを意識した。
				32）指定規則に合致した科目と単位・時間を設定している	4.0	第5次改正カリキュラムのガイドラインに沿った指定規則に基づいた科目及び単位時間数となっている。
				33）定期的なカリキュラムの見直しがされているか。	3.9	40名への定員削減に伴い、実習編成について見直しを行い、成人看護学実習と老年看護学実習を合わせて、成人老年看護学実習を配置した。
				34）テキストや教材は適切なものを選定しているか。	3.3	新入生から電子テキストに変更となった。忘れ物はなくなったものの、十分に使いこなせず効果的な学習ができていない学生もいた。
				35）授業の評価が適切にされているか。	2.1	シラバスや実習要項にQRコードを添付し、授業評価について協力してほしい旨を何度かアナウンスしたが、学生の回答数が少ないため有効な評価が得られなかった。
				36）実践的な看護教育を体系的（講義・演習・実習）に位置付けているか。	3.2	各科目で演習時間を設けている。ただの技術習得に留まらず、事例を用いてアセスメントをしながら演習を行っている。領域によっては実習時間の中で、実践的な技術練習をしている。
				37）講師の資格要件を明示し、要件は満たしているか。	3.9	教員及び外部講義はすべて有資格者である。
				38）効果的に授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。	3.9	各学年担任と再履修学生担当が入り、月に1度、翌月の時間割の調整を行っている。外部講師の急な休講などが生じると調整が困難であるが、専任教員の講義時間を変更し対応している。
				39）シラバスが作成され学生に配布されているか。	4.0	年度ごとに作成し該当学生に配布し説明している。
				40）学生便覧は内容、構成が工夫して作成されているか。	3.6	必要時に学生便覧を用いながら学生指導を行っているが、学生にとって活用しやすいものに構成を変更した。
				41）年度始めにカリキュラムガイダンスを行っているか。	4.0	年度の始めに、各担任から教育計画とともに説明している。
				42）授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。	3.1	メディカ出版の電子テキスト採用し、学生の荷物の負担や教科書の紛失はなくなったが、講義中にゲームをする学生がいるなど、十分効果的とは言えない。

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果
Ⅲ 教育活動	3.4	9 教職員育成・教育推進活動	3.0	43）人材育成目標に向け授業を行うことができる要因を備えた教員確保に努めているか。	3.1	健康上の理由や、介護などを理由に退職が続いた。随時、教員の募集はしているが補充や十分な確保には至っていない。
				44）専任教員一人あたりの担当科目時間数は適切であり、授業準備のための時間がとれる体制を整えているか。	3.0	常勤専任教員の年間講義時間数は平均約68時間で前年度と同様であった。しかし、年間通じて臨地実習での指導や各学年の生活指導や学習支援等があり、十分な講義準備の時間が取れない現状がある。
				45）学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。	2.9	全教員が自己の興味や課題に応じて、メディカ出版のオンラインセミナーを受講した。
				46）教員の授業を相互に参観、講評できる制度があるか。	2.9	一部であるが、教員の授業研究を始めた。次年度は全員に実施していく。
		10 卒業生支援	2.1	47）卒業生の就業先の情報交換などを行い、問題を明確化しているか。	2.1	卒業後に本校を訪ねてくる卒業生や、小田原医師会内の病院や実習施設に就職した卒業生の状況は把握している。同窓会活動を活発化する必要がある。
				48）卒業後のキャリア形成を把握、支援しているか。	2.1	卒業後のキャリア形成については、通信制大学へ編入している卒業生のサポートやアドバイスを教員が個人的に実施したが、今後はシステム作りも検討していく。
		11 臨地実習	3.6	49）実習要項は看護学ごとに作成しているか。	4.0	本校の臨地実習の目的・目標から各領域の達成目標を毎年見直し、記載事項と内容の統一を図ったうえで、各領域のリーダーを中心に実習要項を作成している。
				50）実習目標が達成されるよう実習環境整備が整備されているか。	3.0	各領域で到達度に合わせて評価を明確にしている。また、実習指導者と学生評価をすり合わせるとともに、実習環境についてもその都度調整をし学生に不利益の無いようにしている。
				51）実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。	3.0	教員と指導者の役割を明記した指導案を各実習領域ごとに作成し、同じ目標に向かって指導ができるように活用している。学生の評価を統一形式とし、学生、指導者、教員で共有化を図っている。学年末には、学生毎に評価表のデータ分析を行い、その結果を実習先・施設に配布している。
				52）実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。	4.0	実習前に個人情報の取扱いについて誓約書の記入を行い、その都度指導している。毎年事例を用いて指導を行うと共に、個人情報やSNSの利用に関する取り組みを深めた。
				53）実習時のインシデント、アクシデントを分析し、学生指導に生かしているか。	3.8	実習中に学生が経験したヒヤリハットは、その都度タイムリーに振り返って学びにつなげている。年度末には学生の経験を集計をして実習施設と共有を図り今後の実習指導および学生の傾向についてふり返れるように時間を設けた。

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果
Ⅳ 学生支援	3.7	12 学生支援	3.6	54)学生の安全管理(災害共済保険加入等)を行っているか。	4.0	全学生は保険に加入し、傷害・賠償・感染事故等のトラブルに対応する補償と学生の安全が図られるようにしている。また毎年、小田原警察署に自転車安全講習会を依頼し、自転車の事故防止に向けた講義を設けているが、更にインターネットトラブル等生活安全についての講義も取り入れた。
				55)保護者・保証人に、定期的に情報提供を行っているか。	3.9	夏季休業に入る前に実施した試験結果を、学生から保護者へ渡すよう配布している。年度末には学修記録を送付し、学習課題のある学生の保護者には来校または、電話で情報提供している。また、単位が取れなかった時や再試験回数が多い等問題発生時には、速やかに保護者へ連絡し、課題の共有を行っている。
				56)課外活動に対する支援体制は整備しているか。	2.9	学生の課外活動に対するニーズはなく整備されていない。オープンキャンパスのボランティアをアルバイトにして、学生の経済支援となっている。
				57)学生の経済的側面に対する支援制度の周知を図っているか。	3.8	毎年、日本学生支援機構の奨学金制度の説明会を開催するとともに、各病院による奨学金制度の案内冊子を作成し配布している。また、奨学金の希望調査を年度始めに行っている。奨学金の案内冊子のほか専門実践教育訓練給付金制度について本校のホームページに掲載して周知に努めた。
				58)スクールカウンセラーの配置など、学生の健康管理や学生相談に関する体制は整備しているか。	3.9	4月から12月までの金曜日の放課後にカウンセラーが来校しているが、学生の相談者はほとんどない。
				59)進学・就職に関する支援体制は整備されているか。	3.4	業者に依頼して、就職指導を行った。また、就職試験における書類作成、面接指導を行った。
				60)学校の行事について、適切な事後反省を行っているか	4.0	行事に関しては、関係する教職員で委員会として事前事後で、計画・評価を行っている。
				61)学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。	3.0	今年度は卒業記念品として、実習室のお掃除ロボットを購入してもらい、清掃の負担軽減につながった。
		13 健康管理	3.9	62)学生の健康管理を担う組織体制があるか。	4.0	組織体制としては、健康管理規程に基づき、健康管理担当としての学校医、副校長および保健担当教員が協力して任に当たった。4月には全教職員と全学生を対象に春季健康診断を行った。結果を学校医に報告し、「要精密検査」の学生には早期受診を促し、必要な治療に繋げていった。秋季には学内で、保健係を中心にして身長・体重・血圧・尿検査等の検査を行い、健康管理に役立てた。メンタル面の課題のある学生には「カウンセリングルーム」の利用も勧めていった。
				63)インフルエンザ等感染予防対策がされているか。	3.9	インフルエンザに対しては、10月頃より各学年に説明を行い、ワクチン接種を推奨した。教職員も全員接種対象であり、接種を行った。小児感染症については、入学前より必要な接種を促し、入学後確認しながら、抗体を得られるように支援した。感染症については、担任と協力し、年間を通じて感染状況の把握に努めた。
				64)慢性疾患等のある学生に支援をしているか。	3.6	喘息や片頭痛、月経困難症などの持病に関し、症状に応じて、受診の促しや治療の継続をするように支援していった。担任とも協力して、お休みをしないようにまた、学業が継続するように、受診日など事前にわかる場合は調整に協力した。
				65)健康管理に関する指導や啓蒙活動を実施しているか。	3.9	健康観察表は実習前2週間より記載し、確認していった。日頃から感染症にかからないよう生活指導を行い、食事や生活リズムに注意するよう促していった。体調不良時は受診を促し報告まで聞き、生活改善に努めるよう関わった。

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果
Ⅴ　学生の受け入れ	3.7	14　学生募集活動	3.9	66）高等学校等への情報提供などの取り組みを行っているか。	4.0	県西・湘南エリアの高校（3年生対象：4校、2年生対象：3校）から「校内進路説明会」の依頼を受け、参加協力した。さらに、静岡県東部地域の入学実績校（3年生対象：1校、1・2年生対象：1校）の依頼にも応えた。高校内進路説明会に参加していない県西・湘南エリア7校を訪問し、本校や看護養成に関する情報提供を行った。電話による進路担当教員からの質問にも答えている。自宅から通学できる看護専門学校への進学を考える高校生が多い傾向から、地域のつながりを重視した取組みが大切であると考える。
				67）学校説明会の内容（時期・方法等）は適切であるか。	3.5	オープンキャンパスは、受験活動を具体的に始める3月26日（木）に開催した。高校の春休みを踏まえた日程で実施し、参加者32名（保護者等同伴者23名）であった。年内に合格を決めたいと考える高校生が多いことから、6月7日（土）➡1日間（2回）と7月5日（土）、29日（火）➡2日間（4回）開催し、164名（保護者等同伴者94名）であった。8月は本校のカリキュラム運営の都合で、オープンキャンパスとせず、「学校説明会」の開催をなった。学校説明会は計5日間で、12月まで月1回実施し、33名（保護者等同伴者17名）の参加があった。2024年度（17回）開催したが、2025年度は13回開催し、総参加者は230名（保護者等同伴者134名）で12名減であった。その他、日程が調整できない希望者には、個別に5名（保護者等同伴者2名）対応した。当該年度受験可能な参加者142名中83名（58.5%）が本校を受験し、前年受験者（44.2%）と比較し、オープンキャンパスの効果があったと評価する。8月4週目の開催は、高校1年生と2年生の参加が多い。本校との早期接触により、受験へとつなげる意味で、次年度は土曜日開催のオープンキャンパスとし、本校の理解を進める手立てとしたい。
				68）入学者選抜の時期、方針、方法は適切であるか。	3.9	18歳人口の減少と大学志向が進む中、2022年度実施の入試より、定員確保が困難となっている。昨今一般選抜入学試験は、受験生が減少しており、加えて、本校を第一志望としていない受験生もいるため、学生確保が困難な入試区分となっている。合格したら、入学を約束する専願入試により学生を確保することが重要と考え、小田原医師会圏内にある「医療・福祉施設推薦選抜入学試験（専願制）」を創設した。総受験回数は、2024年度10回であったが、2025年度は12回の入試を実施した。また、受験生へのサービスを高める目的として、Web出願に変更した。総受験者数は、92名で、昨年度より7名増加した。2024年度と変わらず、66名の合格としたが、63名の入学となり、昨年より1名マイナスの入学生数であった。
				69）学生の受け入れ方針を明文化しているか。	4.0	本校の教育理念・目標を反映した学生募集のために、2020年度入試より求める学生像を明文化している。
				70）志願者状況、定員充足率を分析、評価しているか。	4.0	2024年度➡受験者数85名、合格者数66名、入学者数64名　2025年度➡受験者数92名、合格者数66名、入学者数63名であった。3年間60名台の入学者となっており、その前の2年間は70名台と、5年間定員を充足できていない。2025年度実施の入試での神奈川県内の看護専門学校の定員充足率の平均は73.2%であり、本校は、78.8%である。これらの状況と県西地域の18歳人口の人数などから、受験生を全入としても、定員確保が困難であるため、2026年度実施の入試より、定員変更申請を行い、1学年定員を40名に戻すこととする。
				71）社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3.9	神奈川県内の看護専門学校では、23校中15校が専門実践教育訓練給付制度指定講座となっている。本校は、2015年より専門実践教育訓練給付制度の対象講座に指定されている。2025年度は、1年生から3年生の11名が活用している。また、既修得単位認定の規程を設けており、申請のあった3名は単位認定をしている。社会人の受験へのハードルを下げ、キャリアチェンジの希望に添えるよう、入学試験科目を国語の1科目に限定し、同日個別面接まで実施できるように入試を変更した。医療・福祉施設での経験を看護に活かせる医療・福祉施設等推薦選抜入試を創設し、試験科目は小論文とした。関連病院等施設を訪問し、本入試の説明を行った。3回実施の計画を立てたが、第1回目の10月18日実施に2名受験し、2名合格であった。2回目と3回目の応募者はいなかった。

大項目	評価点	中項目	二次評価点	評価項目	一次評価点	自己点検・自己評価結果
学生の受け入	3.7	学生募集の広報	4.0	73）志願者が関心を持つ積極的な広報活動の実施をしているか。	4.0	オープンキャンパスのポスターを作成し、高校524校（神奈川県：132校、静岡・東京・千葉県：118校、東北・北海道：274校）小田原医師会関係施設170枚、小田原白梅ライオンズクラブ60枚、行政：73枚、ハローワーク：21枚、老人関連施設：102枚を送付し、掲示協力をお願いした。地元誌タウンニュースにもオープンキャンパス情報や入学式・卒業式などのニュースの掲載をしている。本校のホームページから情報を収集している受験生がほぼ100％であり、必要な情報が掲載されていると評価されている。オープンキャンパス来校特典として、一般選抜入試の過去問題と入試ガイドブック、学校パンフレットを配布している。中学生との早期接触の手立てとして、3月26日に県西地域の中学生を対象とした看護専門学校を体験するイベントを開催した。小田原市内中学校12校、真鶴町、湯河原町、箱根町2校、大井町、開成町、中井町、山北町、南足柄市市内中学校3校の計23校にポスター掲示を依頼した。合わせてタウンニュースでの広報活動も行った。参加者は、6名であった。
Ⅵ 国際交流地域社会	3.7	16 国際交流	3.4	74）国際的な視野を広げるための授業科目を設定しているか。	4.0	「国際社会の理解」「国際看護」という科目を開講し、国際的な活動を知るきっかけづくりをした。
				75）海外との交流が行えるシステムづくりをしているか。	2.9	1年生を対象に、日本語学校の学生との交流会を実施した。外国人とのコミュニケーションや文化を知る良い機会となった。
		17 地域社会	3.8	76）学校の教育資源や施設を活用して社会貢献・地域貢献に努めているか。	3.9	年2回の学内における献血活動、中学生の職業体験や講演、小学生対象のオープンキャンパスを実施した。
				77）学生のボランティア活動の奨励、支援をしているか。	3.5	地域・在宅看護論Ⅰにおいて、1年生全員が講義の一環として地域の夏祭り等のイベント参加や清掃活動等のボランティア活動に参加した。
				78）教員は対外的に講師としての役割を果たし、活動しているか。	4.0	1人の教員が日赤奉仕団の指導員として活躍した。実践教育センターの「看護教育課程論演習」のアドバイザーとして教務主任を派遣した。また、教務主任は、日本看護協会の代議員や神奈川県看護師等養成機関連絡協議会の理事として活動した。
Ⅶ 研究・研修	3.0	18 研究・研修	3.0	79）教員が専門領域の臨地実習、研修に参加する体制を整えているか。	3.9	教員の希望する研修に参加できるよう予算を計上し参加を促した。実習は自分の専門領域を担当できている。
				80）研究活動を教員相互で支援しあう環境があるか。	2.0	今年度は、研究活動ができなかった。
				81）教員は年1回以上、自主的に研修に参加しているか。	3.1	教員のラダー（人材育成計画）に基づき研修を促しているが、研修参加には個人によってばらつきがある。教育の質向上のため積極的に研究参加を促していく。